

## 59. 被服の機能に関する研究 (第4報)

### スポーツ用ショーツについて

昭和女子大 石毛フミ子

鈴木きみ子

1. スポーツウェアにおけるショーツ (卓球用を対象とする) は、丈が比較的長く、また裾幅が狭いと運動の折、前大腿部が裾線に押さえられ機能的でない。反対に丈が短く裾幅を広げれば裾線の圧迫感がないので活動的ではあるが一定線を越えたときは美観をそこなうことがしばしばある。この丈と幅の好適分を知りたく、これについて外観・機能の両面から観察した。

2. 服装雑誌・市販品及び現在着用されているショーツの各部寸法を計測し、着用者体位との関係を検討した。更に運動に伴なって生ずる胴囲・腰囲・大腿部 (ショーツ裾位置) 周囲の変化 (ふくらみ状態) ・また運動によってショーツ裾線がいかに移動するかを観察した。それらに基づいてショーツを製作し、着用実験を行い適当な丈と胴囲・腰囲・裾回りの各ゆとり分量について検討した。

3. 運動 (卓球) によって胴囲は変化するが腰囲・ショーツ裾位置での周囲寸法はあまり変化しない。

着用実験の結果、胴囲には後にゴムテープを入れることが好ましく、腰囲でのゆとり分量は10cm内外、ショーツ裾位置では6cm内外のゆとり分が必要ではないかと思う。股下寸法は6~8cm位が適当であるように考えたので報告する。